

## 第3回アートアイランズ TOKYO 現代美術展

(伊豆大島旧波浮小学校を主会場に2013年8月31日から9月15日まで開催)

「お山の駱駝」のために2013 再生プロジェクト 李容旭



### 「お山の駱駝」をご一緒に歌ってみませんか

昭和6年に三原山に駱駝が来たのを大変喜んだ大島大好きな西條八十さんによって書かれた童謡「お山の駱駝」、作曲は中山普平です。70年以上の前の歌ですが、大島の名物駱駝を歌ったなつかしいメロディの曲です。このたび、第3回 アートアイランズ TOKYO・国際現代美術展 2013 の展示企画に参加させていただき、お山の駱駝をテーマに作品制作をしておりますが、出来るならこの駱駝の歌を島の皆さんで歌っていただき展示の一部に提示したいと思っております。下記のように実施を予定しておりますのでご参加いただければ幸いです。どうぞよろしく申し上げます。

日時(予定) 2013年8月28日 13時30分-15:30

場所 旧波浮小学校 校内

企画作家名 李容旭(り よんうく) (映像・美術作家/東京工芸大学教授)

主催 Art Islands in Tokyo, 2013

第3回 アートアイランズ TOKYO・国際現代美術展 2013

連絡・照会先 事務局尾形 080-2551-0796

呼びかけに応じて「一緒に歌おう」に13名の島人が参加しました、アコーディオン伴奏は時得さんが引き受けてくれました。そして楽曲が再現され、音源が2013年8月28日に収録されました。



お山の駱駝  
(西條八十) 中山台平 曲

お山の駱駝 西條八十

伊豆の大島 三原の山の  
山の砂原 駱駝があるく  
一頭 二頭 三頭 駱駝の背なか  
のびて ちぢんで 瘤だらけ。

伊豆の大島 三原の山の  
山の駱駝の 背なかの瘤に  
一つ 二つ 三つ 四つの椅子が  
ぶらり さがつて 日が永い。

伊豆の大島 三原の山の  
山のうへから 白帆が見える  
子供可愛いや 駱駝のうへで  
海が見えるぞ 手をたたく。

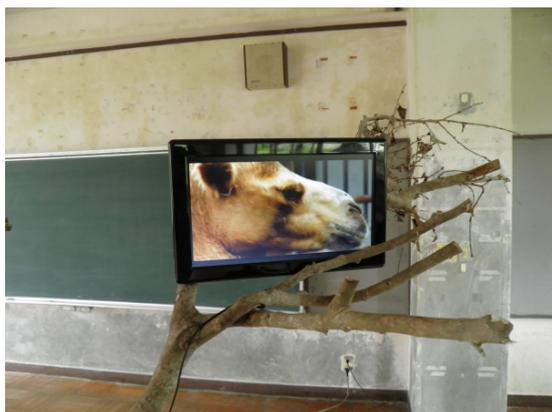
伊豆の大島 三原の山の  
山の駱駝は 子供をのせる  
駱駝可愛いや 子供をのせて  
ほそいお目目がうれしさう。

この楽譜「お山の駱駝」は子供雑誌の王座を占む東京社発行「ロードモトク」十二月特号「アリス」に掲載されておりましたが東京社の都合により西條、中山両先生の御許しを尋ねて此「フレット」に掲載させていただきます。だいのでもありますが、本誌に目覚むる計りに素晴らしい出来の「ロードモトク」を「アリス」に譲り御座下さいませとモトモトフレットに複製しお出ささせていただきます。

## 「お山の駱駝」のために



この造形は「お山の駱駝」、椿の木の骨格で顔と瘤はモニター映像で作上げたオブジェです。もちろん「お山の駱駝」のコーラス隊の歌と映像は一日中教室に流されました。



顔は大島公園で写した動画ラクダのアップ



最後は兵隊の食糧になったと聞いた李さんは鉄砲をラクダに向けて設置しました

第4回アートアイランズ TOKYO 現代美術展  
「お山の駱駝」のために NO2-2014 再生プロジェクト  
李容旭・藤井工房

### お山のラクダの足跡

昭和6年、伊豆大島の三原山では外輪山の茶屋付近から御神火の黒煙が立ち昇る内輪の麓まで遊覧客を駱駝（ラクダ）に乗せて広大な砂漠を横断させるために、ゴビ砂漠からふたこぶラクダを、満州からロバを輸入しました。

昭和6年7月28日横浜港で検疫を済ませた後、赤いトルコ帽を被った飼育係に伴われて京浜国道を二日かかりで東京霊岸島（竹芝栈橋あたり）まで「大島三原山のラクダ」というプラカードを掲げ、列を組んで行進し話題となりました。

昭和6年7月30日の早朝に波浮港に上陸、31日にはじめて三原山に登ったそうです。

さっそく三原山の砂漠でお客さんを運びはじめました。外国の調教師を伴って大島にやってきたラクダとロバたちの写真が残っています。



広い砂漠を鈴の音ものどかに、長い首を空にもたげたラクダが3頭、鞍につけた4脚の椅子に腰掛けて揺られるお客を乗せてのんびり進む姿は「エキゾチックな風景」でたちまち評判となりました。

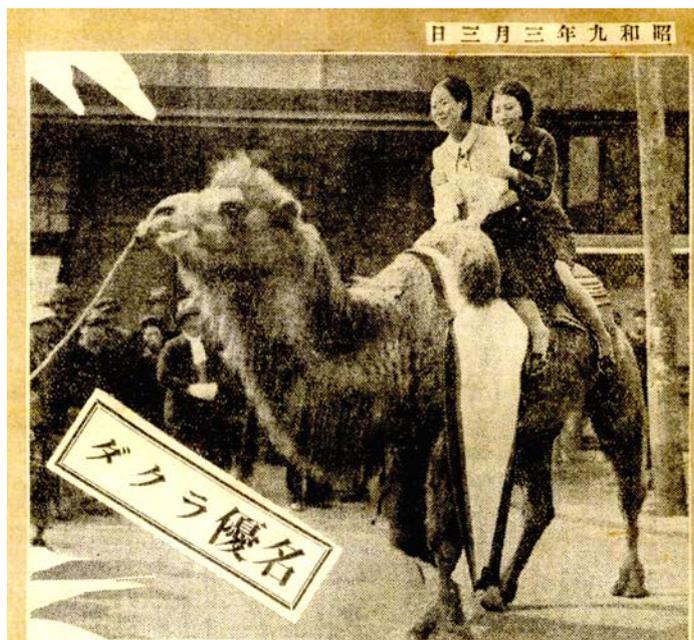
ラクダの砂漠横断は往復で乗客一名一円也 椅子に4人、ふた瘤に一人で5人定員、ロバは五十銭、記念写真は20銭也。何と名前もありました「ギャン太郎」「ちび」「らく太郎」「シロ」など。



一日の遊覧仕事が終わると砂漠に放されました、朝になって二頭の犬が吠えて合図をするとラクダたちは集まってきました。なかには遠く泉津の大島公園近くまで下りていったラクダもあり、犬が探して連れ帰ったこともあったそうです。

### 水谷八重子（初代）の「男装の麗人」に出演

ラクダの中で一番大きな一頭は昭和9年3月東宝劇場で行われた水谷八重子（初代）主演の「男装の麗人」に舞台出演しました。昭和12年には「大島レビュー」に出演し、あんこ姿で唄う淡谷のり子を乗せて舞台を闊歩し人気を博しました。（残念ながらレビューの写真はまだ見つかりません）

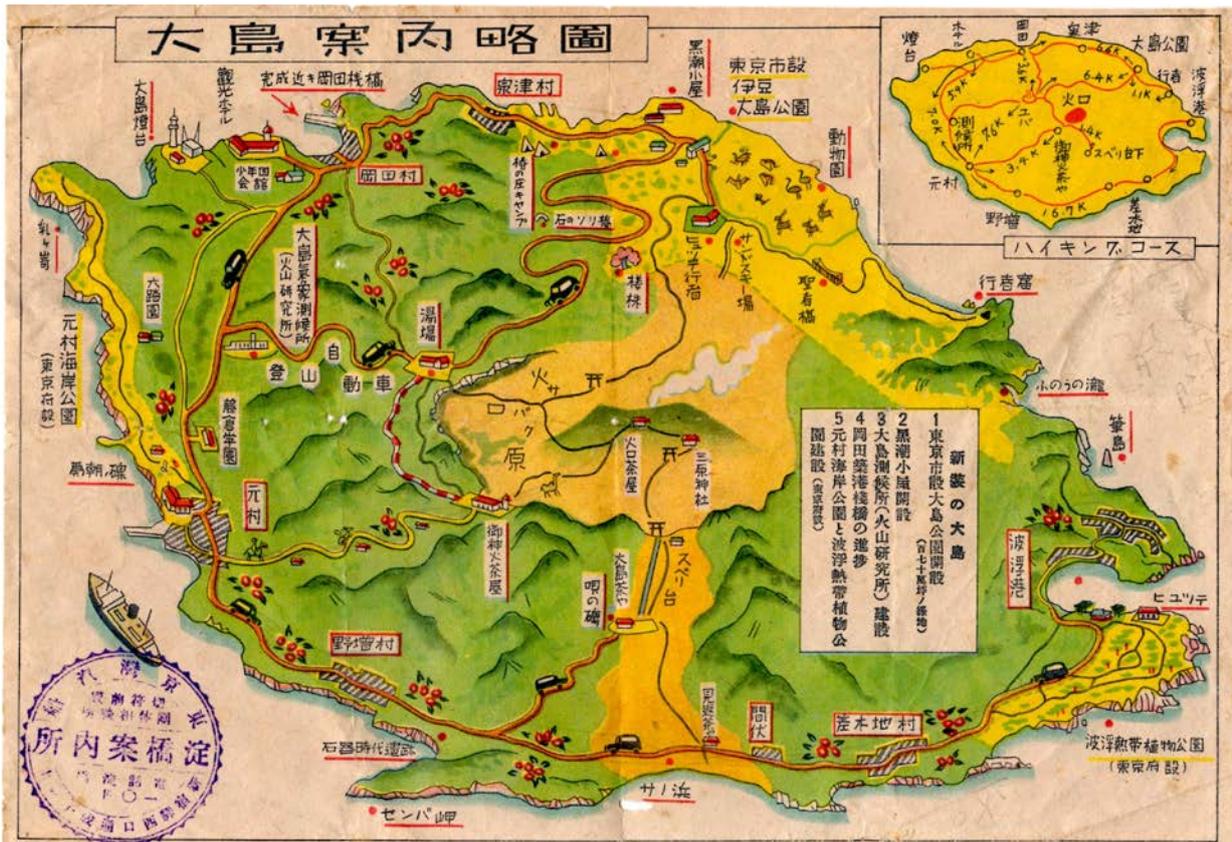


ラクダ名優に（ラクダはギャン太郎君です）

こうして多くの話題を提供した三原山のラクダも太平洋戦争がはじまり、昭和19年になると口取りの矢島さんらは駱駝と共に軍に徴用され、部隊のあった差木地の送信所から白石山まで食糧や資材を運ぶ仕事についたそうです。戦争が激しくなり3頭は千葉（八幡？）のさる牧場に引き取られ、残る一頭は大島に駐屯した日本兵によって、食糧の一端とされてしまったということです。

### 三原山といえば砂漠

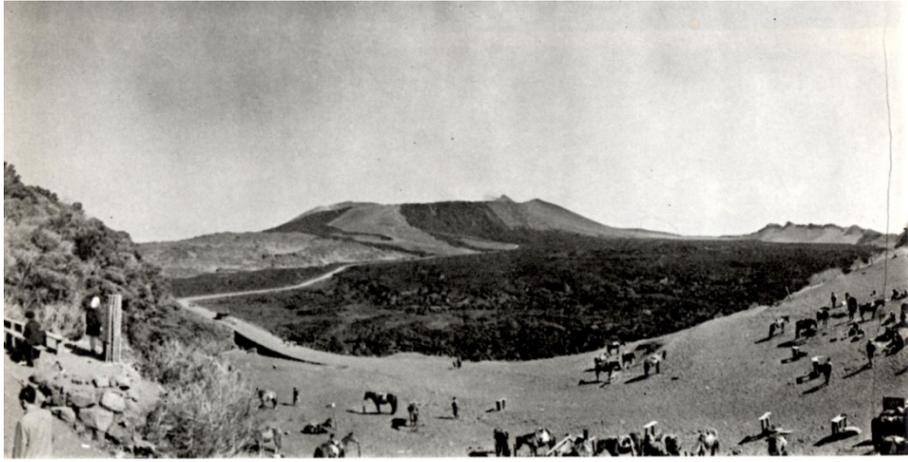
ラクダが登場した頃は火口原全体が砂漠だった三原山ですが、その後昭和25年と昭和62年の噴火によって広大な砂漠は溶岩に埋め尽くされ、三原山内輪山の裏側に行かなければ砂漠は見えなくなり、今そこは裏砂漠と呼ばれています。



昭和13年に印刷された東京湾汽船（現在の東海汽船）の観光パンフレットです



昭和10年頃の観光絵葉書（ラクダは4頭写っています）



昭和30年代の三原山 溶岩（黒く見えるところ）で砂漠が埋まっています



現在の三原山です 昭和62年噴火による溶岩流には緑が蘇っています

かつての伊豆大島の表側（茶屋側）砂漠は流れた溶岩流で埋まってしまいましたが、内輪山の東側には今も黒砂の広大な砂漠「裏砂漠」が広がっています。

